

事業所の試験委員会による試験報告書・2002年7月

KamAZ-5511： 摩耗したシリンダ内壁が増肉 エンジン分解不要

スタヴロポリプロジェクトストロイ公開株式会社、事業所の試験委員会：主任整備士V.D.シャギマルダノフ、車庫主任A.T.スマーギン、修理担当整備士A.V.ブルガーコフ・試験報告書承認：技師長V.A.ダヴィドフ
ロシア・スタヴロポリ地方・2002年7月1日処理・2002年7月9日確認測定

製品

XADO RVS

運転中のエンジンに注入、エンジンの分解・取り外し不要

供試機

KamAZ-5511、登録番号
s832sr26ディーゼルエンジンNo.404495、
No.1およびNo.8シリンダを処理

文書種別

スタヴロポリプロジェクトストロイ公開株式会社
試験委員会による試験報告書

機械類

測定間の運転時間

測定項目

KamAZ-5511ダンプトラック
登録番号s832sr26、ディーゼルエンジンNo.404495

通常運用8日間、走行距離230 km

No.1およびNo.8シリンダの内径：シリンダライナ高さ方向の3断面、各断面で互いに直交する2方向の内径（A方向・B方向）

処理前後の測定は、事業所の試験委員会が目量0.01 mmの内側マイクロメータで実施した。シリンダの処理は、XADO販売代理店の技術者が行った。

主要結果

↓ 0.04-0.07 mm

第8気筒のシリンダ内径、120.00～120.05 → 119.94～120.01 mm

処理済みシリンダの内径：試験委員会による2002年7月1日および7月9日の測定

断面・方向	No.1シリンダ (mm)	縮小量	No.8シリンダ (mm)	縮小量
I、A方向	120.01 → 120.01	—	120.00 → 119.99	0.01 mm
I、B方向	120.10 → 120.07	0.03 mm	120.05 → 120.01	0.04 mm
II、A方向	120.01 → 119.99	0.02 mm	120.01 → 119.96	0.05 mm
II、B方向	120.10 → 120.08	0.02 mm	120.05 → 120.01	0.04 mm
III、A方向	120.01 → 119.99	0.02 mm	120.01 → 119.94	0.07 mm
III、B方向	120.09 → 120.08	0.01 mm	120.05 → 120.01	0.04 mm

内径の縮小は、シリンダライナ内壁面で金属が増加したことを意味する。処理前は円周方向の偏摩耗があり、B方向の内径がA方向より大きかった。

試験委員会の結論

エンジンは分解も取り外しもしていない。処理剤は運転中のエンジンに注入し、測定間の8日間、車両は通常運用を続けた。スタヴロポリプロエクトストロイ公開株式会社の試験委員会は、次のとおり記録した。I. 実施した実験により、XADO技術による処理後、摩擦部位における摩耗部品の寸法増加効果が証明された。II. 試験委員会は、摩耗した機器の再生、摩耗防止、寿命延長およびエネルギー消費量の削減、ならびに予備品購入費の低減を目的として、スタヴロポリプロエクトストロイ公開株式会社の機械・装置を構成する機器の処理にXADO技術を適用することを推奨する。III. 試験委員会は、スタヴロポリプロエクトストロイ公開株式会社の装置および機械の処理を計画的予防保全の体系に組み込むことが妥当であると考えている。

XADO

© XADO。無断転載を禁ず。

本結果は、エンジンを分解せずに処理したKamAZ-5511搭載ディーゼルエンジンのシリンダに関するものである。他のエンジンや運転時間が異なる条件では、測定値が異なる場合がある。RVSIはXADOの旧称であり、第0世代の製品を指す。現行世代の製品はリバイタリザント（摩擦面再生剤）である。2002年7月9日付試験報告書の原本は全文を公開しており、ダウンロードできる。